

NPO法人教育支援グループEd.ベンチャーに 力を貸してください！！

「学校の機能低下」が指摘されるようになって、ずいぶん長い時間が流れたような気がします。この間、その指摘は、学校だけでなく、子どもの「おかしさ」、家庭教育の機能低下へと波及し、一部では、教育に関わるものすべてが問題であるかのようなムードが作り出され、その改善を目的として、数々の教育改革が様々な立場から叫ばれました。しかし、そうして実行された「教育改革」は、一貫性に欠け、行政主体の一部の改革は、教育現場を混乱に陥れてさえいるように聞こえてきます。

こうした「教育改革」の背景である社会状況を俯瞰してみると、「改革」の旗の下に吹き荒れる「新自由主義」の嵐は、「いたみ」を分かたず、弱い者へと押しつけ、大人でさえも生きづらい時代を迎えています。規制緩和が進み、大手企業が地域へ進出する中で、私たちの生活に身近な商店街や中小企業は苦しい経営を迫られ、地域社会のありようも大きく変わり始めています。

当然、こうした流れの中で、競争原理至上主義に学校も生徒も巻き込まれ始めました。学校も、教職員も、そして子どもも、競争させられ、評価される時代がやってきているといえます。「自己選択・自己責任」の言葉のもとに、個人や家庭に教育問題が矮小化され、学習に遅れる者や、家庭の経済状況が苦しい者、障害を持つ子どもたち、外国人などのマイノリティの存在は、「弱いもの」としてますます取り残され始めています。

そして一方では、巨大な教育産業が「教育への不安感」をあおり立てながら、大手を振って教育界に参入してきています。

こうしたなかでも、大和の学校に勤務する教職員や保護者・市民は、日々、学校が抱える教育課題の解決や、子どもたちの健全な育成へと全力を尽くして取り組んでまいりました。子どもたちの学習保障・いじめの根絶・不登校の子どもたちへの対応・地域での子どもたちの見とり・・・課題は山積しています。しかし、目の前の子どもたちに、社会のしわ寄せが様々な形であらわれていることを、私たちは目の当たりにし始めています。その意味では、学校が本来持つべき力さえも、削がれ始めているといえるのかもしれませんが。

しかし、取り残される「弱いもの」が、最後までよりどころとするのはやはり「学校」でしかあり得ません。子どもたちに未来を生きる力をつけるのは、やはり教育による以外にはありません。

そこで、どんなに学校や教育が大きく変わろうとも、「学校をよりどころとするしかない弱い子どもたち」を、そして、そうした子どもたちを支えようとする先生や学校を、ちょっと離れたところから支え、応援する教育支援グループを2007年9月に立ち上げました。現在までに、市民や退職教員・研究者・外国人青年・現職教員が中心となって、学校支援活動と外国人支援活動を行ってきました。

しかし、経済状況の悪化によって、子どもたちの状況はより厳しくなっています。今回、NPO法人として新たに出発し、さらに多くの人々の力を集め、神奈川県と子どもたち、教職員と保護者を支える組織を育てていきたいと思っています。

ぜひ、会の趣旨をご理解の上、会員としてお力をお貸しいただきたいと思っております。

2010年2月20日



法人の名称
設立代表者

NPO法人 教育支援グループEd.ベンチャー
家上 幸子